

園長メッセージ2月 (part II)

今年は厳しい寒さに加え、例年になく強風や豪雪のため各地で被害が続出しましたが、保護者の皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。福岡県内のインフルエンザ罹患者は多く、当園でも、2月の初めに、年少・りすとうさぎの2組が学級閉鎖に追い込まれました。しかし、その後は減少に転じ、21日3名(少2、中1)、22・23の両日には0名になりました。まだ寒さが残りますので、しばらくは留意して参りましょう!

2月1,2日のマラソン大会、そして、8,9日の音楽会では、幸いにも天候に恵まれて、子供達は日頃の成果をいかに発揮することができました。



第二園庭と住宅の3フロックを、年長児は3周、
年中児は2周、走りました。

年少児は、第二園庭と住宅の1フロックを2周、
走りました。1,2日の両日とも、保護者の皆様より、
沢山の声援を送って頂き、有難うございました。

いちご組さんは第一園庭を走っています。年長は40回、他学年は30回を目標に、走り続ける予定です。
8,9日の音楽会では、心を一つにして、美しい声で元気いっぱいになり、器楽合奏を楽しみました。



年中児2クラス合同の合唱



年少クラスの弾き歌い



年長児全員によるハーモニカ演奏

前号に引き続き、日常の子供達の様子を先生達のエッセイを通してご覧ください

1) 先生も頑張ったね!

ほし組 原田愛子

生活発表会に向けて子供達と話し合いを繰り返しながら2カ月間劇作りを行った。まず、「王様の耳はロバの耳」の劇をすると決めてから、目標として、①皆で力を合わせて劇を作る ②見ている人が感動する劇にする の二つを設定した。そのためには、分からない事は教え合い、助け合い協力する。年長らしく役らしく演じる。自分達で道具も考えて見ている人が驚くように工夫する。道具出しや楽器など自分達で出来るだけすると決めた。

練習後には、子供達同士で「～ちゃんの声大きかったよ」「～君、本当の王様みたいで怒るところ上手だった」「～君、役らしく動くのは上手だけど、台詞をもう少し覚えて欲しい」「ここでは、もう少し心配そうに言った方がいい」等と、お互いが褒め、もっと良くするためには、どうしたらよいかを、話し合った。

こうして練習が進み、本番当日は、「ドキドキする」「楽しみだなと言う子や友達の事を心配して「〇〇君、台詞覚えた?ちょっと言ってみて」と台詞の確認をし、自分でも、台詞を言って確認したりする子もいた。劇終了後、子供達に感想を聞くと「楽しかった～」「緊張した」という自分自身の感想もある中、「△△君、ステージで転んで



しまったけど泣かなかったね。すごい!」「××君、台詞自分で言えていたね」と友達を褒め、認める子もいた。自分の事だけでなく、友達のことを考え発表出来る姿を見て、協力し、褒め合う雰囲気が出来ていた事を再確認した。そして、最後には子供から「先生もピアノ頑張っていたね」と褒め言葉を貰い、保育者の私もクラスの一員である、と子供達が認識していることを大変嬉しく思った。

2) 給食後の出来事

ゆり組 堀田 和沙

給食時間後の出来事です。野菜が苦手で、時間内に食べ終えられなかったC男。周りの子は歯磨きまで終えて、絵本を読んでいた。周りが気になり、C男の箸は進まない様子でした。

それを見た A 子と B 子はC男に声を掛けに行きました。A 子「C君これ苦手なの?」C 男「うん」B 子「えー! 美味しかったよ! もっと食べてみてー!」と食べることを勧めている。C男「でも食べられないの」と困った表情のC男。すると A 子が「これ食べたらね、好きな芸能人〇〇みたいになれるんよ! ちょっと食べてみて!」と言われ、C男が一口食べると、A 子「ほら〇〇みたいになってきた!」B 男「本当だ! 恰好よくなりよるよ!」と声を掛け、一口食べる度に声を掛けました。男君もすっかり気分が乗り、あっという間に完食すると A 子「やった! 〇〇やん!」B 子「頑張ったね! 〇〇になれるよ!」と褒めてくれました。C男も笑顔になり、完食出来たことを喜びました。



友達に目を向けて励まし合う姿、それに応えようと頑張る姿を嬉しく思いました。

3) 僕、代わっても良いよ!

ひよこ組 南 祐衣

初めての劇作り。子供達が大好きな「コッケモーモー!」の絵本を題材にした。劇遊びも盛り上がってきたある日、本番で演じる役を決めることになった。一人ずつ何役になりたいか皆の前で発表した。一役三

人の予定だったが、きつねとめんどりの役には、共に四人が希望。ぶた、あひる役には二人だった。ぶた役を希望した A 子が「二人だと大変」と言ったことで、しっかり者の B 子が「誰か代わってあげたら？」と提案した。きつね、めんどりを希望している八人に「誰か手伝ってくれる人はいないかな？」と問いかけたが誰も何も言わない。「どうしようか」「二人だと大変だね」と子供達なりに一生懸命考えている様子。C 男が「先生が手伝うと良いんじゃない？」と閃いたように言ったが、「先生はピアノをするよね」「それだったらダメだね」と振り出しに戻った。

「どうしようか」と子供も教師も悩んでいる時、D 子が「代わってくれた人は、お兄ちゃんやね」と。すると E 男と F 男が「僕、代わっても良いよ」と言い出した。「本当に良いの？決まったら代われなんだよ」と再確認したが、二人共「いいよ！」と笑顔で答えた。教師が「E 君も F 君もどの役も上手だったもんね」と言うと、二人共、誇らしげに「頑張る！」と言った。子供達も「代わってくれてありがとう」「これで大変じゃなくなったね」「良かった」と安心した様子だった。E 男と F 男はその後、一度も嫌がる事なく決まった役を最後までやり遂げた。



この話し合いを通して、年少児なりに自分達で考え、解決策を見出そうとする姿が見られた。E 君と F 君は自分の気持ちを優先するばかりではなく、皆の為に自分がどうするべきか考えたのだと思う。やりたいことから、やるべきことに気持ちを移すことが出来たのも、劇作りを通して一つの大きな成長だと感じる。初めての劇作りを経験し、クラスがより団結しお互いの事を考えられるようになり嬉しく思う。

4) ママには見せたくない！

きりん組 三木千遥

劇の話をしている時、「ママたちに見せたい！」と意見が出た。その瞬間に一人、K 男の表情が曇った。「先生だけに見せる」の一点張りだった。

クラスの中では、とても楽しんで取り組むことが出来るが、人に見られることは苦手な K 男。友達の「恥ずかしいのかな？」という言葉に涙をためて頷いた。私が「一人じゃないよ！友達も一緒だよ」という声掛けに対し、「それなら大丈夫」というものの納得できていない様子。私はこのままではまずいと思い、子供達に「どうしたらよいか？」と投げかけてみた。すると、いつも仲良くしている子が、優しく「仲良しの友達と一緒にだったらどうかな？」と発言。途端に K 男の表情が明るくなった。私が「そうだね、仲良しの友達と一緒にだったらどう？」と繰り返して尋ねると、「大丈夫！」と安心したように言った。

その後の劇活動は、大きな声で、楽しそうに演じており、本番もいつも通りステージ上に立って演じることが出来た。終了後も「楽しかった！」とキラキラした笑顔を見せた。



子供達にとって、友達からのことばの影響力は、私たちが思っている以上に大きいのだと実感した出来事だった。又、一人ではできないことも、友達がいると出来るという仲間意識も強くなったのではないかと思う。きっと、K 君にとって大きな自信になったと思う。

平成 30 年 2 月 23 日 文責 福原洋子